

外科リニューアルにあたり

～外道(げどう)と本道(ほんどう)～

夏休みとなり、屋外のレジャーには良い季節となりました。春先からこの時期を待ちかねていた釣りボーイ・ガールにとって楽しい時期が到来しました。

釣りをされる方は良くご存じですが、目的でない魚を釣り上げると

“外道だ！”とがっかりする事があります。この様に“外道”という呼び名には、“本流でない亜流あるいは劣ったもの”の意味が含まれています。

江戸時代医師の専門分野を“本道”と“外道”で分けられていたことをご存じでしょうか。“本道”と“外道”は、現在の内科と外科に相当する分野を示します。

当時の外科手術というと、無麻酔で対応できる”おでき”など体表の処置や外傷治療など限定的なものでした。十分な医療知識と安全な麻酔技術が無かったため、本格的な手術治療は命がけのものでした。

そこで診察と投薬が中心の内科治療を”本流＝本道”と呼び、手術を行う外科は劣ったものと見做(みな)され”外道”と扱われていたのです。

19世紀以降、麻酔技術の進歩や不幸な戦争を経験する中、医療技術としての外科治療は格段に進歩し現在の外科が確立されました。

昭和30年代前半まで、頭(脳)から足の先まで一人の”外科”医が診療を行っていました。しかし医療技術の進歩と病気の本態の解明がすすみ、“なんでも屋の外科”から”専門性の外科”に分化しました。

現代の外科領域は、がん治療、外傷、先天異常、機能障害を克服するための重要な治療手段で、本道の医療です。一方、侵襲的な治療である事から、専門外科医に加え麻酔科医・看護師・医療技術者などスタッフがチームを組み、安全性の高い最善の治療を提供しなければなりません。

大和市立病院では、専門外科系診療科が日々治療を行っています。2017年6月より最新の外科治療を提供する為、診療体制を整備しました。ここに当院の”本道”外科治療について紹介させていただきます。



副院長 藏並 勝

平成29年6月から外科が新体制となりました。
これにより、診療体制の改善・外来枠の拡充を図ります。

- ① 消化器外科を新設
- ② 外科外来を1階・2階に分割
 - 1階 消化器外科・外科・心臓血管外科・
脳神経外科・乳腺外科
 - 2階 形成外科・呼吸器外科



市民の皆様から信頼される地域の基幹病院として
良質かつ適切な医療サービスを提供します



大和市立病院

「消化器外科について」 科長 小倉 直人

平成29年6月から新たに消化器外科を標榜し、今まで以上に充実した外科の診療体制を整えました。改めまして、消化器外科についてご案内いたします。

消化器外科の主な診療内容については以下のとおりとなります。

① 消化器悪性疾患の治療

各種癌治療ガイドラインに準じ、エビデンスに基づいた治療を行っています。胃、大腸手術には積極的に腹腔鏡手術を導入しています。

術前・術後補助化学療法、再発に対する化学療法、放射線療法、化学放射線療法、緩和治療など癌に対して集学的に治療を行っています。

② 低侵襲手術

消化器良性・悪性疾患、癒着性イレウス、鼠径ヘルニア、胆石など当施設での手術適応を厳格に定め、腹腔鏡下手術を積極的に行っています。合併症ゼロを目指して取り組んでいます。

③ 救急疾患への対応

急性腹症で手術が必要な場合、迅速に対応していきます。

日中は外科外来担当医が、夜間・休日は当直医師が対応いたします。

外科は365日オンコール体制をとって対応しています。

これからもより良い医療を皆様に提供できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



「心臓血管外科とは」 科長 町井 正人

心臓血管外科は、心臓、大血管および末梢血管の外科的治療を担当する科です。

現在当科では、人員や設備の都合で、心臓および胸部大動脈疾患に対する外科治療を行っていません。従って、現在行っている外科的治療は、

① 腹部大動脈瘤などに対する人工血管置換術、ステントグラフト内挿術

② 下肢閉塞性動脈硬化症などに対する自家静脈・人工血管によるバイパス術、経皮的血管形成術（PTA）、血栓内膜摘除術

③ 下肢静脈瘤に対するストリッピング手術、高周波による血管内焼灼術、硬化療法

④ 血液透析用内シャント設置術およびその不全に対する経皮的血管形成術（VAIVT）

⑤ 血管内治療（コイル塞栓術、血栓溶解術など）

⑥ 体内式ペースメーカー植込み術および交換術

などを行っています。

いずれの外科治療においても、患者さんに十分ご納得いただけるよう説明を行い、それぞれの患者さんに合った最善の治療を行うよう心がけています。



2階外科外来は、以前人間ドック室のあった場所に新設されました



「形成外科について」 科長 笠井 昭吾

形成外科とは、手術やけがによる、あるいは生まれつきの変形を、手術などによって改善することを目的とする診療科です。

大和市立病院に形成外科初の常勤医として赴任してから3年目となりました。形成外科というのはまだまだ認知の低い分野ですが、おかげさまで、この2年間でかなりのご理解をいただけるようになってまいりました。

ここで改めて、今年度から新しく変わった点についてお知らせいたします。

① 完全予約制の導入による待ち時間の短縮

通常形成外科を受診する方のほとんどは緊急性が低いことから、原則として初診の方についても、紹介状の有無を問わず、予約制とさせていただき、待ち時間の短縮を図っていきます。

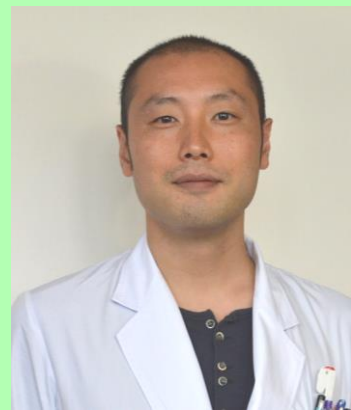
② 特殊外来（乳房再建外来、リンパ浮腫外来）開始

最近ニーズの高まっている乳房再建とリンパ浮腫の治療については完全予約制の特殊外来を開設し、より密度の濃い診療を目指していきます。必要に応じて他科と連携しながら治療にあたります。

③ 炭酸ガスレーザー導入による小腫瘍切除の簡略化

平成29年3月から炭酸ガスレーザーが導入されました。これにより、簡単な小腫瘍切除の一部は外来でその日のうちに治療が行えるようになりました。具体的には、盛り上がったほくろ、いぼ、毛細血管拡張性肉芽腫などがこれにあたります。

以上のような改善を図り、今後も患者さんに貢献すべく努力してまいります。よろしくお願いいたします。



2階外科外来は完全予約制です

「呼吸器外科について」 科長 須賀 淳

呼吸器外科では、原発性肺癌や転移性肺腫瘍、気胸や縦隔腫瘍などの手術や日常診療を行っております。

当科では従来の開胸手術だけでなく、より低侵襲な胸腔鏡手術を行っております。その手術の特徴として、通常の胸腔鏡手術は切開創が三か所以上であるところ、二か所の切開創（二窓法）で手術できることが挙げられます。

手術は当院常勤呼吸器外科医師に加え、東海大学医学部呼吸器外科からの非常勤医師、計二名以上の呼吸器外科専任医師が担当しています。東海大学呼吸器外科では胸腔鏡手術を1991年に導入し、以降25年にわたって症例・経験を蓄積し、二窓法による完全鏡視下での手術を確立しており、当院においても安全性に最大の配慮をしながら、同様の方法で手術を行っております。

また、気胸などの症例においては、二窓法の二つの切開創のうち一つをさらに縮小した1 window & 1 puncture methodによる完全鏡視下での手術を実施しています。肺癌などの症例に関しては、術後補助療法をはじめとする化学療法なども行っています。

患者さんにとってよりよい医療を提供できるよう努めておりますので、是非ご相談ください。



～星に願いを～



今年度も病院正面玄関に七夕の笹が登場。飾りつけは病院ボランティアの皆さんのご協力のもと行われました。

来院された患者さんや付き添いの方がそれぞれの願いをしたため、七夕の日には笹がしなるほどにたくさんの短冊が。

ご家族の回復を願う短冊が多かったのは病院ならではのでしょうか。皆さんの願いが星に届くといいですね。



院内コンサートを開催しました！

入院患者さんに「癒しの場」を提供し、心のケアにつなげることを目的に、7月13日（木）に院内コンサートを開催しました。

演奏者のLickLuck（リックラック）の皆さんは、エレキトーンや電子ピアノ、リコーダーなどを使い、「炭坑節」「魔女の宅急便メドレー」などを中心に全10曲を演奏しました。参加者の皆様は、美しい音楽を聴きながら、リラックスしたひと時を過ごすことができました。



高校生が「一日看護体験」



「一日看護体験」は、市内在住・在学の高校生を対象に、患者さんとの触れ合いを通じて看護の仕事への理解を深めてもらおうと毎年夏休み期間に実施されているもので、今年で27回目となります。

白衣に着替えた高校生は、午前中は看護師の付き添いのもと、体位交換や昼食の配膳、車いす介助などの仕事を体験し、午後は講堂にて正しい手洗いや大人や子供の人形を使った心肺蘇生といった看護実務を体験しました。

また、「食」についても考えてもらう機会になればと、昼食は入院患者の方々と同じ病院食が提供されました。

参加者の一人は「不安を抱えている患者さんに対して優しく寄り添い、細やかな気配りをされる看護師さんの姿を見て、将来看護職に就きたい気持ちが強くなりました」と話していました。

